

教育に金! ぶっ込みます!



元吉川市議会議長
かとう克明さん



長女
かとう彩乃さん(22歳)

娘 お父さん、教育に金ぶっ込みます！って穏やかじゃない言い方ね。

父 確かに言い方は荒いかもしれないね。彩乃も知っていると思うけど、日本の少子化問題は本当に深刻なんだよ。少子化を食い止めなければ！

娘 ……もう、いつからかわからないくらい昔からこのように言われ続けているんだよ。にもかかわらず、抜本的な対策は未だ講じられていないんだ。未婚化、高額な子育て・教育費、仕事との両立の難しさなど国はもちろんのこと、市町村レベルでの取り組みは重要なんだよ。

娘 本気で子どもを育てますっていう事なのね。

父 もちろんこれまでも吉川市は様々な事業を展開してきたいるんだよ。でも、さらに政策の拡充は必要だよ。

娘 具体的に教えて。

父 例えば、これまで吉川市は15歳までの医療費が無料だったけど、さらに拡充して18歳までを無料化する。給食費も、まずは幼稚園、保育園を無料化。小学校、中学校の給食費は段階的に実施するよ。

娘 さらに無料化している市町村はあるからね。さらに育てやすい環境にしていきたいと少子化は止められないし、お父さんは、子育てするなら吉川市と言われるようなまちにしたいんだ。

父 さらに育てやすくしていかないとけないってことね。ねえ、お父さん、今、一人ひとりの子どもにあった教育が必要って言われているけど吉川市はどうなの？

娘 そうだね、子どもたちは一人ひとり実態が違うし、様々な環境や状況の下にいるよね。さらに少子化問題だ。彩乃はこれからの教育活動はどうあって欲しいと思うっ。

父 それは、出来れば一人ひとりの子どもにあった教育をして欲しいわ。

娘 そうだね。一人ひとりのニーズにあった教育、地域の実態・実情に即した教育をしていく必要があるんだ。そのためには、各学校の校長先生のリーダーシップの下で、各学校が地域の実情を踏まえて、一人ひとりの子ども！多種多様化する子ども！に適した教育活動を考えて実行してもらおう。

娘 それって聞いたことあるわ。

父 彩乃！あくまでも考えるのは各学校！難しく言うと、校長先生の予算執行上の裁量権の大幅な拡大による学校教育の推進。

娘 そのために必要なのは、あくまでも各学校が考える教育活動に使えるお金！予算なんだ！
父 親が通わせたいくなる学校！通わせてよかったと思える学校！を目指したいね。

娘 教育に金ぶっ込みます！それでこの言葉につながるのね。良く分かったわ、お父さん。

いろいろできる!?

現場の裁量で使えるお金を増やします!



ICT強化・プログラミング実習



専門コーチングスタッフ導入



進学指導に向けた仕組みづくり



外国人講師増員多言語との触れ合い



教員スキルの向上研修



幅広い好奇心に対応する体制づくり